



今日の和装家は久志本京子さん

(聞き手/日本和装ホールディングス株式会社 安田知美さん)
※今回は編集長出張等のため、当NPOの正会員である同社のPR担当、安田さんにインタビューをお願いしました。



2019年、白鶴関に和装家の名刺でご挨拶。

(編集部)お嬢様のコラムは北日本新聞のサイトでご覧いただけます。



「日本の四季と文化を大切にすることができるときものが大好きです」

きものどんなところが好きですか？

「季節感を表現できるところが魅力です。パーティなどの場面でも、洋服だと『これで大丈夫かな？』と迷うことがありますが、きものなら間違いないです。季節に合ったものを選ぶこと、選べること、日本の文化を大切にすることができるときものが大好きです」

「3歳から箏を習っていて、演奏会のたびにきものを着ていましたので、物心ついた頃から身近な存在でした。母は箏を持っていただけに弾けなくて『もったいないし、習ってみる？』みたいな軽いノリで始めたのですが、最終的には師範の免状を取りました。免状を取った頃、妊娠中でお腹が大きくて、師範披露の会では袴をつけて演奏しました」

「その後、しばらくきものから離れていたんですが、子どもたちが大きくなった頃に、日本和装の広告を見たのがきっかけで、きものとのご縁が再開しました。その頃、東京へ引っ越してきてたんです。最初は洋服で行ってたんですよ。でも、『え、また洋服買うの。』って思って(笑)。そこで『自分できものを着られたら楽だわ!』と思い、着付けを習い始めました」

「小さな頃から芸能活動をしてきた娘ですが、現在はメロルソンの大学で芸術を学んでいます。相撲好きは健在で、2年前から北日本新聞社のWEBサイトで相撲コラムを連載しています。新聞離れが進んでいる今、『若い人にも読んでもらいたい』と新聞社からオファーを受けました。今はフリーで活動していて、SNSを通じて仕事を受けることが多いみたいです。娘はまだ自分できものを着られないんですが『着せてもらうのは大好き!』と言っています(笑)」

「お仕事やこれからの目標についてお聞かせください。『今は看護師の資格を活かして、特別支援学級の生徒さんのバス通学の付き添いを

「実はこのきもの、今日が初めて着たんです。その後の地震の被害にはとても胸が痛みます。いつかまた訪れる機会があればいいなと思っています」

「お嬢様はコラムニストとして活躍なさっていると伺いました。私も大好きになりました」

「それ以来、15年以上、大相撲を応援し続けています。特定の部屋の後援会には入っていませんが、顔見知りの関取や親方から声をかけてもらって、いろいろな行事にも参加させてもらっています。もちろん、行くときはきものです」

「小さな頃から芸能活動をしてきた娘ですが、現在はメロルソンの大学で芸術を学んでいます。相撲好きは健在で、2年前から北日本新聞社のWEBサイトで相撲コラムを連載しています。新聞離れが進んでいる今、『若い人にも読んでもらいたい』と新聞社からオファーを受けました。今はフリーで活動していて、SNSを通じて仕事を受けることが多いみたいです。娘はまだ自分できものを着られないんですが『着せてもらうのは大好き!』と言っています(笑)」

「娘が5歳くらいいるとき、私の地元三重県での地方巡業を観に行つたのがきっかけです。友人のご主人が興行主

「自分が着られない」という人が本場に多いんですよ。実際、お寿司屋さんの女将をしている友達が私がよくきものを着ているのを見て『素敵ね』と言ってくれるので『たくさん着れば上手になるから』と勧めたところ、着付け教室に通ってくれて、今ではお店で毎日きものを着られています。そういう人がもっと増えたらいいなあと思いますね」

大相撲との関わりについて教えてください。

「娘が5歳くらいいるとき、私の地元三重県での地方巡業を観に行つたのがきっかけです。友人のご主人が興行主

「長嶋成織物さんですね。品があつて、センスが抜群。しかも、展示の仕方も素敵なんです。見るだけでワクワクします。京都まで見学に行つたときも素晴らしい技術を拜見できて、とても感動しました」

本日お召しのきものも、とても素敵ですね。

「きものも帯も能州袖です。『昨年の日本和装さんの産地ツアー』で出会いました。能州袖の光沢が好きで、もともと1枚持っていたんですが、その頃ちょうど『還暦に向けて赤いきものが欲しいな』と探していたんです。『真つ赤だと派手すぎるかな?』という迷いもありましたが、このきものと出会って『これなら!』と即決しました」

「産地ツアーでは輪島の朝市や御陣乗太鼓も見に行つて、すごく楽しい思い出になりました。この帯締めも夜のパーティのゲーム大会で



きものを親しむようになったきっかけを教えてください。

「3歳から箏を習っていて、演奏会のたびにきものを着ていましたので、物心ついた頃から身近な存在でした。母は箏を持っていただけに弾けなくて『もったいないし、習ってみる?』みたいな軽いノリで始めたのですが、最終的には師範の免状を取りました。免状を取った頃、妊娠中でお腹が大きくて、師範披露の会では袴をつけて演奏しました」

お気に入りの織元があれば教えてください。

「長嶋成織物さんですね。品があつて、センスが抜群。しかも、展示の仕方も素敵なんです。見るだけでワクワクします。京都まで見学に行つたときも素晴らしい技術を拜見できて、とても感動しました」